

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況①

団体名	埼玉県立総合教育センター江南支所	実施日	平成 28 年 5 月～平成 28 年 12 月
代表者	斉藤登志雄	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	高校生の視点を導入した「多自然川づくり」		
活動目的	外来植物の駆除や在来種の管理河を通し、川環境や自然を守る取り組みに進んで参加する人材の育成につなげることを目的とする。		
活動内容	三ツ又沼ビオトープでのネズミムギなどの外来イネ科草本の刈取りやマグワの伐採といった保全管理活動、埼玉県自然学習センターの見学及びあらかわ市民環境サポーター事務局による概要説明と意見交換などを実施した。講義は、荒川上流河川事務所と生態系協会の方々によって行われ、荒川のエコロジカル・ネットワークへの理解が深まる内容であった。 高校生たちは、「あらかわ市民環境サポーター」の方々と保全ボランティア活動しました。 「荒川の自然を守る会」の方々と三ツ又沼ビオトープの管理について意見交換とワークショップ		
活動の成果	保全活動などの体験学習をきっかけに、自然環境分野の進路先を選んだり、環境サポーターとして今後も積極的にボランティア活動を行っていきたいと考えたりする参加者が増えた。荒川の自然を守るためには若い世代の力が不可欠という切実な状況を知ったことで、使命感と意欲が向上し、河川環境に対する認識をより一層深めることができた。		
今後の改善点	河川環境に興味・関心を持ってもらうため、講義よりも体験学習を多く取り入れたが、体験活動中にもっと意見交換が行われるような雰囲気作りが必要だった。また、参加者募集の際、ポスターの掲示や本団体ホームページの更新など、できるだけ具合的にわかりやすい内容で発信するよう改善し、参加者を安定して確保できるよう努めていく。		
最終助成決定額	193,860 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況②

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月
代表者	三浦 輝夫	活動場所	坂戸市（高麗川）
タイトル	清流高麗川プロジェクト		
活動目的	高麗川の良好な水辺環境を将来の子孫に引き継いで行くために、市民と行政が協力して、様々な活動を推進していく。		
活動内容	環境、植生、水生生物・水質、野鳥、学童支援、高麗川塾、広報の 7 分科会を中心として、浅羽ビオトープ周辺の環境保全活動を行っている。値域の自治会と連携したゴミ拾いや、荒川上流河川事務所と連携したクリーン作戦に参加するなど、高麗川流域の水辺環境の保全活動を行っている。こまがわニュースの発行などを行った。 こまがわニュース（左） 武州・入間川プロジェクト助成による発行と記載  発行及び郵送作業  浅羽ビオトープ内水路および高麗川清掃活動 浅羽ビオトープ水路他敷地内の草刈り作業		
活動の成果	ビオトープ内水路の水質調査や浄化に対しては自治体と協力して取り組んだ。地域の清掃活動は自治会と共同作業でおこなうなど、周囲の団体と連携し効果的な成果が出るよう取り組んだ。		
今後の改善点	市内のイベントや市役所での啓発イベント等も有効活用することで、幅広い年代の会員を確保し、地域と一体となった活動を継続していけるよう取り組みを続け、より多くの方が親しみを持てるような活動をこまがわニュースなど通じ、紹介して行きたい。		
最終助成決定額	156,622円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況③

団体名	SUNJOY 南小畔川	実施日	平成 28 年 7 月～平成 28 年 10 月
代表者	安原 昭司	活動場所	川越市（南小畔川）
タイトル	アレチウリ駆除とカワセミの観察		
活動目的	水害の原因、マムシやハクビシンの棲みかにもなるにもなるアレチウリの駆除活動、減災。生息する生物の情報を地域住民の方へ広く周知するため。		
活動内容	年 3 回のアレチウリ駆除作業を徹底した。 1 回目：時期が 1 か月位早かったため見つけることが困難だった。 2 回目：そのため熱い中、繁茂したアレチウリの駆除活動が困難であった。 3 回目：台風の影響で繁茂していたアレチウリは増水で流されていた。増水時の上限で繁茂し目を出していたアレチウリを駆除した。   地域内の幼稚園、保育園  		
活動の成果	三回目のアレチウリ除去を行ったが、一回目は時期が早く、二回目は繁茂したアレチウリ除去活動を行った。三回目は台風のため 1 週間遅れて除去活動を行った。新しい芽が生えていた。		
今後の改善点	事前 PR を更に強化するため、「武州・入間プロジェクト」のぼり旗を実施日の 2、3 週間前から借りたい。暑さがやわらぐ夕方以降の小規模花火大会を実施できないかという声があった。作業効率の為、活動時期に流動性をもたせる。渇水時期に雑木処理を計画している		
最終助成決定額	152,908 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況④

団体名	狭山市立入間川小学校	実施日	平成 28 年 9 月～平成 29 年 3 月
代表者	千葉 収	活動場所	狭山市（入間川）
タイトル	入間川探検隊		
活動目的	本校では総合学習「ゆりの木学習」等で、隣接する入間川について調査や体験する学習を行い、地元の川へ愛着を持つ児童の育成を目指している。		
活動内容	川に生息する動植物の観察、川の清掃活動や環境調査、地引網やカヌー体験などを今年も充実発展させ実施した。天候に恵まれ全日程を実施することができた。 (1) 入間川の自然観察：理科や総合の学習では各学年の学習内容に合わせ、入間川河川敷に出かけ、草花の様子、川に生息する生きもの観察や季節探しを行った。 (2) カヌー体験：5 年生の「ゆりの木学習」では、狭山市環境ネットワーク等の協力を得て、普段できない記憶に残る経験をした。 (3) 地引網体験：5 年生は漁業組合等の協力を得て、かつて盛んに行われていた「地引網」について、その歴史や方法の説明を受け、実際に体験した。 (4) 入間川水族館：自然観察の時に網ですくった魚や地引網で捕獲した魚などを学校の職員室前に設置した「入間川水族館」で飼育し、好評を得た。 (5) 入間川の環境整備：環境委員会では入間川の水質検査や環境整備（ゴミ拾い）を行っている。各学年とも観察の帰りには、河川敷のゴミを拾って帰った。 (6) 学習発表会：各学年 1 年間学習してきた内容を保護者や地域の方々を招待して発表した。今年の生活科や総合学習の発表では、入間川や地域環境に関する発表があった。    地引網体験／学習成果発表会 野鳥や草花の観察、昆虫採取		
活動の成果	例年学習内容が多く天候に左右され実施できない活動があったが、今年度は数回の延期等、担当学年の粘り強い努力により全て実施できた。子供たちにとって大変貴重で魅力的な学習である。		
今後の改善点	予算的にも厳しいものもあり、計画を見直し無理のない範囲で継続していきたい。		
最終助成決定額	180,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑤

団体名	NP0 法人はとやま環境フォーラム	実施日	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
代表者	愛場 謙嗣	活動場所	鳩山町（唐沢川、鳩川、越辺川）
タイトル	鳩山町における自然環境調査保全活動		
活動目的	鳩山町の北東部は県立丘陵自然公園区域にあるなど自然豊かな山村部にあるが、公園内に大規模集合住宅（鳩山ニュータウン）が造成され、町内に 4 つのゴルフ場ができるなど、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化してきている。そうした自然・生活環境の変化を多面的に継続監視（モニタリング）することを通して、多様な生態系の再生とより安全な暮らしの確保に向けての基礎データを蓄積する。また、様々な環境保全活動の体験学習・講演会などを通してそれらの意義への理解を深めてもらうのが活動の目的である。		
活動内容	(1) 唐沢川ホトケドジョウ等水生生物調査活動（平成 28 年 10 月 23 日） (2) 「第 4 回エコフェスタ比企」イベント会場展示パネル 残留農薬分析結果を発表（平成 28 年 11 月 5 日） (3) エコ図書館運営活動 かわせみハウス常設「はとやまエコ図書館」蔵書の 1 部のみ開架（鳩山町チャレンジスペース他で書棚 25 台の蔵書管理）		
	  		
活動の成果	(1) 今年度は採水直近に散布されたクロロタロニル、ヒドロキシシソキサゾール、ホセチルの 3 成分の残留分析をおこなった。いずれも「0.001mg/リットル未満」だった。これらの分析データ等をもとに、鳩山町に町独自採水検査の仕方と広報の改善を要望し、今年度から始めて、検査結果が町の広報紙に掲載されるようになった。 (2) エコ図書館」での蔵書整理がある程度できたので、今年度から、ニュータウン住民の閲覧貸し出しの便を考慮し、ニュータウン内のかわせみハウスに設置した書架に一部展示し、閲覧貸し出しを始めた。 (3) 絶滅危惧種のホトケドジョウの生息が今年度も確認されたのは喜ばしい。生息数に大きな変化はなかった。しかし、同じく絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオと共に、アライグマによる食害の心配は払拭されておらず、緊急な対策が望まれる。これまでの調査データはアライグマの生態系への影響と駆除対策の必要性を訴える事例として活用することができた。		
今後の改善点	今後、エコ図書館のPRを行い、特徴ある「里山の自然と文化資料館」としての役割の充実に図りたい。		
最終助成決定額	160,800円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑥

団体名	NPO 法人エンスナチャー 荒川・江川	実施日	平成 28 年 4 月～平成 29 年 1 月
代表者	小川 早枝子	活動場所	上尾市、川島町、川越市 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	三ツ又 市民参加で在来植物を増やそう		
活動目的	もともと三ツ又沼に自生していたと思われる植物群落復元のため生物多様性維持管理及び生態系の復元を目的とする。		
活動内容	三ツ又沼の生物多様性維持管理及び荒川の草花を育てるプロジェクトのための下記の活動を行った。 ・⑦⑧⑨ゾーンの外来種植物抜きやトウグワの伐採。 ・⑦⑧⑨ゾーン及び車道土塁で荒川の草花を育てるプロジェクトに参画。 ・三ツ又沼ビオトープで行われる環境教育への参画。 (左) 小学生の「生きもの探し」体験にてカヤネズミの巣を発見 (中) トモエソウの苗の移植     (下) 高校生とマダマツ切り		
活動成果	環境教育で訪れるみなさんのおかげでトウグワの伐採がすすみ、⑦⑧⑨ゾーンの環境は一変した。在来種の自生の増加はめざましく、特にイネ科の増殖には目を見張るものがある。		
今後の改善点	再生されていく自然を活かしながら新たな種による荒川の草花による再生を行うことになるが、元の自然再生性と新たな種の導入に際して整合性を図る必要があり大変難しい。		
最終助成決定額	161,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑦

団体名	NPO 法人荒川流域ネットワーク	実施日	平成 28 年 5 月～平成 29 年 3 月
代表者	鈴木 勝行		
活動場所	・ 入間川、赤間川（入間川第二用水） ・ 高麗川、葛川 ・ 都幾川、槻川、瀬戸川、唐沢川、谷川、一ト市川、雀川、田黒川 ・ 東大谷川、西大谷川、飯盛川 ・ 小畦川、南小畔側、北小畦川、霞川		
タイトル	入間川水系一斉水質調査 Map 作成		
活動目的	荒川水系に清流を蘇らせること目標にまずは多くの方々に身近な河川に関心を持ってもらうため、当会設立から水質調査を行ってきた。水質調査の結果をマップ化して、荒川流域の環境団体、行政各機関、学校等に広く配布し河川環境改善の啓発を行う。		
活動内容	今回、PC にデータを入力すればマップが自動的に作成できるソフトを開発し、誰でもマップを作成できる仕組みを作った。 本年度は、より広く大勢の人に関心をもってもらうため Google Map を活用してインターネット上で公開することした。 また本年は、特にアユの遡上調査を実施している入間川水系に重点をおいた。河川環境の実態把握し点をおいた。河川環境の実態把握し、水質改善の手立てを検討していく。    （左）一斉水質調査についての説明会及び水質調査の配布 （中）ときがわ町ホタルの里水質調査の様子 （右）嵐山オオムラサキの森活動センターにて採水した河川水の水質測定の様子 （下）作成した荒川流域一斉水質調査マップ 		
活動の成果	今までは水質調査結果のマップ化を大学関係者に依頼するなど、鈴木代表が苦勞して作成してきた。今回、パソコンにデータを入力すればマップが自動的に作成できるソフトを開発し、誰でも、マップを作成できる仕組みを作った。 さらに、本年は、広くより大勢の人たちに関心をもってもらうために、GoogleMap を活用し、公開した。河川ごとの調査地に対して ID 番号をつけた		
今後の改善点	より見やすいマップを作りたい		
最終助成決定額	170,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑧

団体名	埼玉県立いずみ高等学校	実施日	平成 28 年 5 月～平成 29 年 2 月
代表者	水石 明彦	活動場所	川島町（三ツ又沼ビオトープ）
タイトル	三ツ又沼ビオトープの保全活動		
活動目的	いずみ高校・生物サイエンス科の 2 年生で行う「生態学基礎」の授業において、「荒川上流河川事務所」や「日本生態系協会」、「地域サポーター」の方々と協力し、三ツ又沼ビオトープに侵入した外来種の駆除を中心とした自然環境保全活動の実施を目的とする。		
活動内容	三ツ又沼ビオトープでは、外来草本植物の繁茂が問題となっており、三ツ又沼ビオトープは、その地域の自然植生回復を目的としているが、国外から持ち込まれた外来草本植物が侵入し、繁茂してしまうことにより日本の在来植物の生息場所が脅かされるという問題を抱えている。そこで、三ツ又沼ビオトープをフィールドに授業の一環としてビオトープ管理実習を行い、オオブタクサやセイタカアワダチソウなどの外来草本植物の駆除や、繁茂しすぎた竹林やクワの管理、自然植生回復のための実験の手伝いなどを行った。 2 月 1 日ヨシ刈りの様子   総括発表会での意見交換会 2 月 24 日  11 月 9 日クワ切りの様子		
活動の成果	日本生態協会や荒川市民環境サポーターの方々の協力を得ることにより、より実践的なビオトープ管理実習が体験でき、実習を通して、環境保全活動の大変さや、日本の在来植生を守る活動の重要性が実感を通して理解できるようになった。 ビオトープでの活動体験を受けて、自然環境保護に対する生徒の意識が高まり、校内での環境保全に関する学習や実験に対して、積極的に取り組むようになった。		
今後の改善点	今後は、校内の実験と三ツ又沼ビオトープでの活動がリンクできるように、実習や授業内容の工夫をしていくことが課題である。		
最終助成決定額	184,994 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑨

団体名	川島町網打連合会	実施日	平成 28 年 6 月～平成 28 年 8 月
代表者	加藤 晃	活動場所	川越市、川島町（入間川、越辺川）
タイトル	投網打ち・船乗り体験会		
活動目的	より多くの方に投網文化に親しんでもらうため、船乗り体験、投網打ち体験（陸地）、河川の浅瀬から投網を打つ経験ができる機会を設けて、段階的に投網の技術を上達させていける場を提供し、特に若い世代の人々の投網と魚への関心・意欲を喚起することを目的とした。		
活動内容	  毎年 5 月に川島町内で行われている「ちびっこフェスティバル」会場での船乗り体験、投網打ち体験（陸地）に続き、6 月に越辺川で「船乗り体験会」を実施した。8・9 月には河川の浅瀬から投網を打つ経験ができる「投網・地引網体験会」を実施した。段階的に投網の技術を上達させていける場を提供することにより特に若い世代の人々の投網と魚への関心・意欲を喚起することを目指した。8 月と 9 月の「投網・地引網体験会」は、台風等による水位の上昇によりどちらも中止となった。  （上）船乗り体験／（下）地引網体験／ （右）会場受付の様子		
活動の成果	川島町の広報誌の他、5 月の「ちびっこフェスティバル」会場で体験会と団体 HP の宣伝を行い、より多くの方たちに知ってもらえるよう努めた。また、初企画の「船乗り体験会」は地域の子供会に声掛けを行っていただき、乗船者数は今年も 100 名となった。川島町が新調した和船をお借りして乗船できたため、人数の多い家族も同じ船に乗ることができ、大変好評であった。リピーターも多く見られた。 8 月と 9 月に予定していた「投網・地引網体験会」は台風等による水位の上昇により中止となってしまった。今年は企画の詳細告知を全面的にホームページで行い、中止の連絡も当日 8 時までにホームページで告知することを予め明記したため、中止による混乱は無かった。		
今後の改善点	投網解禁期間は限られているため、今年のように台風の後等、長期間水位が下がらない場合、日を改めての実施は難しい。この問題への対策として、代替企画（陸上での投網体験会等）の準備を今後検討していきたい。		
最終助成決定額	178,230 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑩

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月
代表者	安孫子 繁子	活動場所	上尾市、川越市、川島町 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境を楽しむ会		
活動目的	荒川の自然環境を学ぶとともに、自然の持つ有用性や自然の楽しさを体験しながら学ぶことが目的。		
活動内容	今年度は、三ツ又沼ビオトープや河川敷の植物を利用した草木染や草遊びも実施した。また親子で楽しめる自然観察会も実施した。 ・親子自然塾三ツ又と一般や高校生対象の自然塾三ツ又を実施した。環境フェスタではフクロウ作り、リース作り、数珠球のブレスレットを実施。 ・4月の自然塾では就学前の子は広い場所を歩く経験が少ないようだったが、面白がっていた。親たちが野草を食べられるということに驚いてくれた。また熱心に自然とふれあってくれた。以後のイベントにも参加してくれた方もいる。 ・浦和高等学園環境教育：自然塾は 10 年以上行っている。人数が増え今年はパン焼きができなかったのが残念だったが、を学校に行き実施したので生徒は熱心に観察や作業に参加していた。 ・10月の自然塾は親子とも思い切り虫取りや自然遊びができた。 ・10月29日パン焼きサツマイモ掘り ・上尾の環境フェスタではオギの穂でフクロウ作りをし、子どもたちが熱心に作った。 ・七草採り・七草粥 平成 29 年 1 月 7 日  4 月 2 日 自然塾三ツ又：樹の幹につ いている生き物の観察  10 月上旬上尾市環境フェスタ パネル展示 草あそび  1 月 7 日 七草の観察と七草粥の会		
活動の成果	自然塾では就学前の子は広い場所を歩く経験が少ないようだったが、楽しんでいるようだった。親たちが野草を食べられるということに驚いてくれた。		
今後の改善点	1 月の七草の会は大人向けにし、自然の中で七草の観察とおかゆ作り自然管理作業を体験してもらった。大人たちも春の七草を自然状態で見るのは初めての人が多く企画してよかった。		
最終助成決定額	148,000 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑪

団体名	NP0 法人荒川の自然を守る会	実施日	平成 28 年 4 月～平成 29 年 1 月
代表者	菅間 宏子	活動場所	上尾市、川越市、川島町 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境管理作業		
活動目的	外来種の駆除やアシ刈りを実施するとともに、三ツ沼ビオトープの定点調査、自然観察会を実施し、多くの人々に保全の必要性を理解していただくことを目標にして活動した。		
活動内容	今年度は、外来生物の駆除やアシ刈りを実施するとともに、三ツ沼ビオトープの自然観察会の実施や広報活動等を実施し、より多くの人々に保全の必要性を理解していただいた。また自然保護を確実にするために、自然を守ると同時に育てる活動として、地域の在来野草の種子からの育苗と移植活動に力を入れてきた。参加者の安全の確保に取り組むと同時に保険を充実することができた。 5 月 1 5 日定例の管理作業 生きがい愛の会等、くの団体からご協力を頂きました。 7 月 2 日 早朝の管理 作業 8 月 15 日 イノシシの調査		
活動の成果	助成金を活用し、在来野草の栽培と種子採取を積極的行うことができた。そのため来場者の小学生・中学生・高校生・社会人に外来植物除去のあと、種蒔きや植え付けをすることができた。 参加者に在来生物の貴重さと外来種除去のサイクルを体験してもらい喜ばれた。 キノコ菌を利用した外来樹木の駆除については取り組んだ時期が遅かったので効果はよくわからなかった。今後も継続してみたい。 保全作業向けの燃料や使用者のガソリンの比重や道具の部品補充もでき助かった。		
今後の改善点	キノコ菌を利用した外来樹木の駆除については取り組んだ時期が遅かったので効果はよくわからなかった。今後も継続してみたい。		
最終助成決定額	1 6 5 , 0 0 0 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 28 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑫

団体名	比企郡川島町立出丸小学校	実施日	平成 28 年 7 月～平成 29 年 2 月
代表者	柳澤睦夫	活動場所	川島町（三ツ又沼ビオトープ）
タイトル	荒川の自然再生体験		
活動目的	荒川の河川敷にある三ツ又沼ビオトープにおいて、自然観察を行うとともにハンノキの種子採集し、苗を育て、その苗を再びビオトープに植え戻すことや外来植物を取り除いたところに在来植物を植える自然再生の活動を目標としている。		
活動内容	5 年生の総合的な学習の時間（わくわくタイム）の「川島の緑と水（環境を守る）」の学習で「荒川の自然再生」をテーマに取り組んでいる。 川敷にある三ツ又沼ビオトープにおける動植物の生態系の観察やハンノキ（ミドリシジミの繁殖樹）の苗木の植栽と種の採集などの活動を、荒川市民環境サポーターの皆さんの支援をいただきながら定期的に行った。秋から冬にかけて三ツ又沼ビオトープ周辺で採集したハンノキの種を、学校のプランターに植え、一本一本を鉢に植え替えて、2 年間育てた。今年度は苗木が育たず、植え戻すことはしなかったが、在来植物のキンミズヒキとチカラシバとイヌタデを種から育て、三ツ又沼ビオトープの外来植物を取り除いたところにキンミズヒキとチカラシバを植えた。豊かな自然再生を願う活動である。    （左）ハンノキ・在来植物の種まき三ツ又沼で前年の冬に採集したハンノキの種子を学校でプランター、在来植物（キンミズヒキ、イヌタデ、チカラシバ）の種子も蒔いた。毎日の水やりをした。 （中）三ツ又沼ビオトープを知ろう」のサポーターの方の講話。教室であらかわ市民環境サポーターさんに在来植物と外来植物について教えてもらいました。 （左）「三ツ又沼ビオトープを知ろう」の現地学習 サポーターさんに植物の名前や虫の名前などを教えてもらいました。三ツ又沼ビオトープへは自転車で行きました。		
活動の成果	現地や教室で、荒川河川事務所・日本生態系協会の方々・あらかわ市民環境サポーターの皆さんの指導を受けたり、資料で調べたりすることで、児童は環境保護に関する知識・理解は体験に基づく確かなものにしてきている。 種子から 2 年かけて育てたハンノキの苗を三ツ又沼ビオトープに植栽したり、苗木の周辺の下草を刈ったりという自然再生の本格的な活動を児童は体験し、環境保護意識を高めることができた。苗木を育てるには、長い期間や、水やりや植え替えなど多くの手間をかけなければ、植え戻しができるまで大きくすることはできない。		
今後の改善点	今年度は、苗木を 1 本だけ植え戻すことができたが、発芽率の低さや発芽前後はもちろんであるが、普段からの水分管理等を行う必要を感じている。 また、5 年生の総合的な学習の時間の「守ろう 川島の緑と自然（環境を守る）」の学習の成果を発信して、保護者・地域の方に広めていきたい。		
最終助成決定額	94,338 円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成